

昇龍

-しょうりゅう-

龍蔵寺便り
第6号

2022.7



門前が綺麗になりました
赤門〜長屋門間の壁面沿い（本堂向かって右側）に植樹を行いました。
たくさん種類の草花が植えられ、季節に応じて変化する花の様子を楽しめます。
お参り際には、龍蔵寺掲示板とあわせて、是非ご覧ください。
今後、赤門〜仁王門（本堂向かって左側）も、同様に整備する予定です。

お盆の迎え方

○八月十三日〜十六日の間は、盆棚（精霊棚）を作り、ご先祖様を迎えましょう。
○八月十三日のお盆迎えには、お寺にお参りし、本堂の灯明の火を提灯などでお持ち帰りください。お墓からご自宅までご先祖様を導く灯りとなります。
○八月十三日には、本堂にて、お供え用のお茶をお渡ししています。お盆期間中はこのお茶を盆棚へお供え下さい。
○八月十三日のお盆迎えには迎え火を焚き、十六日の送り盆には送り火を焚きましょう。



▲精霊棚の一例（天台宗総合研究センター「お盆のしおり」）

- お供えの基本は【五供】とされます。お供えをして、ご先祖様をおもてなしいたしましょう
- ①お香：お線香の香りと煙でご先祖様を導きます
 - ②灯明：ろうそくで明かりをともします
 - ③供花：きれいなお花をお供えしましょう
 - ④浄水：毎日新しいお水をお供えしましょう
 - ⑤食べ物：お膳や季節の野菜をお供えしましょう

◎新盆法要について
該当お檀家へは既にご通知のとおり、左記により「新盆合同法要」を執り行います。ご出欠未返信のお宅には、ご返信の程よろしく願っています。
なお、法要当日、境内は「合同法要参列者詰め込み駐車」となりますので、お墓参りの方は、南側ガラス駐車場をご利用ください（当日は、交通誘導員が出てご案内をいたします）。
日時：八月十一日（木）山の日
第一座 午前九時
第二座 午前十一時
場所：龍蔵寺本堂
法要にてお渡しするお塔婆はお盆期間中は盆棚の脇にお供えいただき、十六日の送り盆でお墓参りなさる際に、お墓にお立てください。



境内の紫陽花と鐘撞堂

TOPIC

- ◆法華三部経十巻 修復
- ◆住職〈法務大臣表彰〉〈天台座主表彰〉 受賞のご報告
- ◆コラム：法華経 / 見かえりの弥陀
- ◆お盆の迎え方

発行日…令和四年七月一日
発行所…青柳山談義堂院龍蔵寺
発行人…眞木 興空
編集人…眞木 興遼

編集後記
幼い頃、お盆にキュウリとナスで馬と牛を作るのが好きでした。
その時に聞いた「ご先祖様は、馬に乗って急いで自宅へ帰ってきて、帰りは牛にたくさんお土産を載せてゆつくり戻っていく」という話が、子ども心にとっても印象に残り、今でも自分の死生観の一部となっていると感じます。
(副)

青柳大師龍蔵寺
公式ホームページのご案内
行事や活動についての情報やお寺の歴史・由緒を紹介しております。是非一度ご覧ください。



←左のコードを読み取っていただくか、「青柳大師」で検索ください。

法華三部経十巻 修復

過去の荘厳美麗を現代に



龍蔵寺本堂・須弥壇(しゅみだん)に仏さまをお祀りしている高壇)の、ご本尊さまの前には、以前より古い経巻(きょうかん)を立てが置かれておりました。

それは天台宗の抛りどころとなる経典『法華経』を、巻物の形にしたものなのですが、手入れを施さず年を経たため、台座にはロウがこびりつき、塗りも剥げかかっており、経巻自体もススヤホコリで黒ずんで、一見したところ、それが何なのか判別がつかない状態でした。

お寺にとつて、ご本尊さまと、根本となる経典とは、何よりも大切なものですので、信頼できる仏具店に修



修繕前の法華経

理の見積もりを依頼したところ、「この経巻立ては、もともと、金箔と極採色で装飾された、大変に珍しいものです。ご本堂にて代々お祀りなされるものですので、ぜひご修復をお薦めします」とのこと。

その言を受け、京都の仏具修繕所へお預けをして約半年。このたび修復が完了し、無事に帰山。改めてご本尊さまの前に、お祀りさせていただきました。

写真のとおり、台座、経巻ともに、きらびやかな彩色がよみがえり、お檀家ご先祖ご供養の際にも、功德が倍增する感がございます。ご参詣の折、ぜひご覧くださいませ。



修繕後の法華経

ちよつと寄り道

仏教コラム①

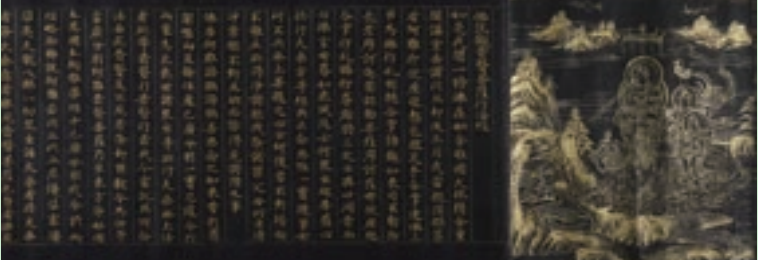
法華経(ほけきょう)

天台宗の根本経典である『法華経(妙法蓮華経)』。サンスクリット語では、

「サツダルマ」ブンダリー「カーストラー」(白蓮華のような正しい仏法を述べた経)といい、遅くとも紀元後一五〇年にはインドにて原典が成立していたとされ

ます。その後、『法華経』は中国にて漢訳され、日本へと伝わります。その内容は、インドの山霊鷲山(りょうじゆせん)にて、釈尊が八万にも及ぶ聴衆に教えを説く場面から始まります。そこで説かれる「全てのものは平等に成仏し救われる」という教えは、「特別な修行を経た出家者のみが救われる」という考えが主流であった当時において、革新的な思想であり、多くの人々の信仰をあためました。

また、『法華経』は文学・芸能・美術にも広く影響を与えたとされ、その教理の深淵さや表現の豊かさから、「経王(きょうおう)」とも称されます。天台宗の法儀にも多く用いられる『法華経』。法要にご参列の折には、『法華経』の持つ歴史や奥深さも感じただければ幸いです。



『紺紙金字法華経』(奈良国立博物館蔵)

住職 〔法務大臣表彰〕 〔天台座主表彰〕

いささか旧間に属する事柄ですが、昨秋、保護司勤続の功労により、法務大臣表彰を受賞いたしました。またこれに併せて、第二八世天台座主猊下より、同趣旨の賞状ならびに、〔座主表彰〕と織り込まれた、記念の輪袈裟を賜りました。誠にありがとうございます。これを励みとし、今後も罪を犯した人たちの改善更生に尽くしてまいります。

お知らせのとおり、住職におきましては現在、保護司(ほごし)刑務所等出所後の改善更生を支援)及び、教誨師(きょうかいし)刑務所内における矯正教育の支援)の、両職を拜命しております。この勤めを通じて第一に心がけていること

受賞のご報告

は、罪を犯した人たちに、「被害者の心情を理解させる」という事柄です。

(もしも自分が、あるいは、自分の家族が、自分がしたこと、同じ目にあつたなら、どのように感じるのか?)

と想像を働かせる所から、深い懺悔と、生きなおしが始まると考えるからです。

同時に心がけているのは、「罪を犯した人間の、家族・親族を思いやる」という姿勢で、いわれのない白眼視や肩身の狭さを強いられる(加害者家族)にも、慈しみの眼を向けたいと思うのです。一人でも多くの人が、安らぎある人生を送れるよう、微力を傾けてまいります。



法務大臣表彰 表彰状並びにメダル



座主表彰 賞状並びに記念輪袈裟



ちよつと寄り道 仏教コラム② 見かえりの弥陀

京都東山、紅葉の名所として知られる、永観堂・禅林寺様のご本尊は阿弥陀如来。そのお姿は一般的な仏像と異なる、とても珍しいお姿です。右の写真→にありま

すように、正面から見ると、首を横に向け、後ろを振り返るような仕草をされており、そのお姿から、「見かえりの阿弥陀さま」として信仰されています。

どのような所から、こうしたお姿が現されたのか?と申しますと、それには次のような逸話が残っているのです。 〔時は平安時代末期、もう少しで鎌倉幕府が誕生する頃のお話。永観律師(えいかんりつし)という僧侶が、人々を救う道を求め、ご本尊の周りを、お念仏を唱えながらひたすら巡る修行をされてい

と言います。驚いた律師が立ち止まると、阿弥陀さまは後ろを振り返り、「永観、遅し」と叱咤し、共に念仏行道をなさったとのことで、その有難いお姿を、後の世に長く残すために刻まれたのが、「見かえりの阿弥陀さま」だと申します。

振り返り、後ろから来る人をつつかのごときそのお姿は、私たちに語りかけま

「周囲をやさしく思いやり、自分が誰に支えられているか、振り返ってごらんなき

「後ろから来る人(子孫やお嫁さん、部下や後輩たち)の成長を辛抱強く待ち、惜しみなく愛情をかけなさい」

「自らの背中を振り返り、自分が正しい道を歩いているか、考えてごらんなき」 さて、皆さんの心の耳には、阿弥陀さまの語りかけるお声が、どのように聞こえるでしょうか??

※この記事は、龍蔵寺墓地水屋に掲示している「お墓まいりの法話」からの転載です。「お墓まいりの法話」は随時更新していきますので、門前掲示板の「今月のことば」と共に、ぜひお目通しください。